

わい化りんご園の雑草防除体系

(園試 果樹部)

1. 背景とねらい

りんごわい化栽培では、樹冠下は清耕状態に保つことが必要である。このため、主に除草剤による防除を行っているが、接触型除草剤の使用が主体のため、散布回数が多く、また、強雑草に対する効果も弱いためヨモギ、クローバー、イヌタデなどが増加しやすい。このため、多年生雑草の防除、散布回数の節減、清耕維持効果の向上を目的として有効な除草剤の検索、および組み合わせによる体系的散布の検討を行った。

2. 技術の内容

1) 使用する除草剤および散布体系は表-1の通りとする。

表-1 除草剤および散布体系

優占草種	1回目	2回目	3回目
強雑草	1 吸収移行型 (高濃度)	吸収移行型 (低濃度)	吸収移行型(低濃度) または接触型
	2 吸収移行型 (高濃度)	接触型+土壌処理型	吸収移行型(低濃度) または接触型
弱雑草	3 接触型+土壌処理型	吸収移行型 (低濃度)	吸収移行型(低濃度) または接触型

2) 散布方法は、雑草生育期の雑草茎葉散布とする。

3) 散布回数は3回を基準とする。

4) 開花期までには樹冠下を清耕にするため、初回散布は草丈30cm以下、5月上、中旬とする。

5) 2回目以降は雑草の再生状況を見て散布するが、草丈30cm程度を目安とする。

6) 適応地域 県下全域

3. 指導上の留意点

1) わい化りんごで使用できる主な除草剤、散布方法等を表-2, 3に示す。

表-2 除草剤の種類および散布方法

作用特性	農薬名	商品名	散布薬量, 水量(10a)(濃度)
茎葉吸収 移行型	グリホサート 液剤	ラウンドアップ	125~1000ml/50~ 100l(100~400倍)
	ジクワット液 剤, パラコー ト液剤	レグロックS グラモキソンS パラゼットSD	300~500ml/70~100l 150~300ml/150l
土壌処理型	リュニロン水 和剤	ロックス	300g/100~150l
	DCMU水和剤	DCMU カーメックス他	200g/70~100l
	CAT水和剤	シマジン	200g/70~100l
接触, 土壌 処理混用型	DCMU, DC PA, XMC水 和剤	クサゲウンDX	1.0~1.5kg/150~ 200l

表-3 果樹園に発生する主要雑草および吸収移行型除草剤散布濃度

草 種	濃 度
強雑草 多年生広葉 クローバー, ギシギシ, イタドリ, ドクダミ イネ科 ススキ, ヨシ, スズメノヒエ	100倍
1年生広葉 イヌタデ, ツユクサ	
多年生広葉 ヨモギ, タンポポ, ハルジオン, オオバコ, チドメグサ	150倍
弱雑草 多年草 イネ科 ケンタッキーブルーグラス, オーチャード	
1年生広葉 スベリヒユ, イヌガラシ, スカシタゴボウ, ヒメジョオン ノボロギク	
1年生広葉 ハコベ, ミミナグサ, アカザ, エノキグサ イネ科 スズメノカタビラ, メヒシバ, エノコログサ, ヒエ	400倍

3) 接触型除草剤に土壌処理型除草剤を混用すると, 接触型のみの枯殺速度よりやや遅くなる。

4) 土壌処理型除草剤および土壌処理効果を有する除草剤の使用は, 葉害を避けるため年1回以内とする。また, 砂質土壌での使用も控える。

5) 個々の薬剤の使用方法は, 県雑草防除基準に準ずる。

6) 初回の散布時期が遅れると雑草の草丈が高くなるなどし, 十分な殺草効果が期待できないので注意する。

4. 参考文献, 資料 昭和57~60年 岩手県試果樹試験成績書

5. 試験成績の概要

